

全日本合唱連盟「ガイドライン」 WEBセミナーで主旨説明

12月26日、全日本合唱連盟は、「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」(11月26日公表)に関するセミナーをZOOM・ウェビナーで開催しました。

主催は合唱関係の様々な情報を発信している(株)コーラス・カンパニー^{※1}。今回は「全日本合唱連盟の「ガイドライン」が示す第3波における合唱活動」と題し、合唱関係者にとって大きな指針であるガイドライン第2版について、策定者の立場から説明があり、最後に質疑応答がありました。

—————【パネリスト】—————

・加藤英明氏

ガイドライン監修・横浜市立大学
附属病院感染制御部部长

・戸ノ下達也氏

ガイドライン作成委員会・全日本
合唱連盟監事

・三好草平氏

ガイドライン作成委員会・東京都
合唱連盟事務局長

—————【聞き手】—————

・坂元勇仁氏

レコーディング・ディレクター、大阪
芸術大学客員教授

筆者は事前申し込みをしていたものの当日は所用で聴くことができず、翌日配信されたYoutubeで視聴しました。参加者は、原則ビデオ・マイクともオフでの参加、質疑応答で発言する場合のみオンとなり、映像として映し出されるファイルの共有はできません。

したがって、セミナーを欠席した場合は、セミナー終了後、主催者が録画したものを期間限定で受け取り閲覧できるようになっています。

今回は800名を超える希望者があったとのこと、多くの合唱関係者が注目していることが分かります。セミナーは2時間以上に及びました。

如何に合唱を行うか

全日本合唱連盟としては「如何に気を付けながら合唱を行うか」が基本的な立場であると強調していました。

初めに、三好氏、戸ノ下氏よりガイドラインの各項目について策定者の立場から詳しく説明がなされました。また、それぞれの医学的根拠について加藤氏から解説がありました。

いずれにせよ、ガイドラインをよく読む必要があります。まだお読みでない方は、全日本合唱連盟のサイトをご覧ください。
<https://jcanet.or.jp>

距離とマスクの課題

ガイドライン第2版でとくに多くの方から問題視されたのは「必要に応じてマスクを着用する」という文言が何か所かに見られることです。この表現は、受け取り方によってはマスク

を着用しなくてもよいと判断してしまう危険性もあり、混乱するということです。

また、「マスクを着用しない場合、団員の距離は発声する前方向に1.5m程度(最低1.2m)、**左右は密が発生しない程度を確保し、団員同士が向かい合う配置は避ける。**」という点についても同じくわかりにくいという声を聞きます。

これに対して、距離とマスクの問題は一律に規定することは難しく、これだという**答えはない**、あくまで一つの目安として捉え、各地域の感染状況を勘案して対策をとって欲しいと答えていました。また、具体性に欠けるとの指摘に対して、具体的に数値を記載すると、使用する施設側との問題が生じてしまう可能性もあり、あえてそのような表現は避けたとのことです。

都市部とそれ以外とは、感染状況が相当違います。それを全国一律にすることにはやはり無理があるのではないかと。厳しく規定することは簡単だが、果たしてそれが本当に意味があることなのか、としています。

加藤氏は、新型コロナウイルス対策は「ゼロ・トランス^{※2}」ではない、1%でも感染者を減らすことが重要、ここに絶対

Online



加藤英明・戸ノ下達也
三好草平・坂元勇仁

コロナ禍における合唱活動を考える④
全日本合唱連盟の
「ガイドライン」について聞く！

(コーラス・カンパニーより)

はないと強調しました。

さらに、「飛沫」の定義も現状ではまだ定まっているとはいえ、「エアロゾル」という言葉も独り歩きしていると懸念を示しています。

飛沫の可視化実験がいくつも行われていますが、可視化できる粒子サイズ自体もはっきりしているわけではなく、どのサイズなら感染するかもわかっていないため、とにかく唾液を浴びるような状況だけは避けることが重要と警告していました。

現在マスクはたくさんの種類がありますが、全日本合唱連盟では**不織布**を推奨しています。しかし、どのようなマスクにせよ、着用の仕方が正しくなければ意味がない、本当に一人一人がきちんと着用しているか常に注意する必要があるとしています。練習の時は規定通りの距離やマスク着用を守っていても、休憩時にどこまで守れるのか、そこが重要なポイントです。

ガイドラインは考えるきっかけに

ガイドラインはあくまで考えるためのきっかけであり、主旨をよく理解したうえで自分たちのものとして展開することを望んでいます。今や合唱界においては分断や格差が生じています。如何にして安全に合唱することができるのか、みなで考え、新たな方策を生み出してゆくことが最も望まれていることです。

全日本合唱連盟では、個別の質問を受け付けています。HPの「お問い合わせ」欄にあるアドレスにメールを送ると回答してもらえます。

※1 コーラス・カンパニー：「合唱に関わる全ての人々を結びつけることによって合唱文化の発展に貢献します」というコンセプトのもと、合唱を学ぶさまざまな講座の企画・運営、各種情報の発信、作曲家・指揮者・演奏家のプロモーションとマネージメント、国内外アーティストによるコンサートの企画・開催、合唱楽譜の企画・制作と普及活動、日本の合唱作品を海外へ紹介、合唱音楽を通して国際文化交流を行う

※2 ゼロ・トレランス：不寛容・非寛容の意。

- ・品質管理における理念のひとつ。わずかな不具合も見逃さず、不良品を徹底的に排除すること。
- ・教育理念のひとつ。軽微な規律違反であっても寛容せず、厳しく罰することで、より重大な違反を未然に防ごうとするもの。

<続報>お江戸コラリアーズ

陽性者発生も濃厚接触者なし

合唱団お江戸コラリアーズの演奏会後にメンバーの一人がPCR検査陽性であったことが12月20日付で公表されたことは、前号の『おんがく広場』第118号でお知らせし

ましたが、その後の情報として、12月19日夜、保健所より**演奏会関係者は濃厚接触者にあたらぬ**という回答があり、幸いにも**当該メンバー以外に陽性者はいない**ことも確認できたとのことでした。

発生に至った経緯を公表された文書に基づいて示します。

12月5日 リハーサル(検温などで異常なし)

6日 本番(同上)

12日 練習(当該メンバーは不参加)

18日 メンバーの1人が発熱(37.7°)し、最寄りの医療機関にてPCR検査を受けた。

19日 **新型コロナウイルス感染症陽性**が確認された。以降平熱に戻った。団の練習は中止とした。夜、保健所より**演奏会関係者は濃厚接触者にあたらぬ**という回答があった。

勇気と誠意ある対応と思います。本件に関する問い合わせは下記のメールアドレスで受け付けています。

info@oekora.net

コロナウイルスから人類への手紙

地球は囁きました、
でもあなたは耳を貸さなかった
地球は話しました、
でもあなたは聞かなかった
地球は叫びました、
でもあなたは耳を塞いだ
そして、私は生まれました・・・
私はあなたを罰するために
生まれたのではありません・・・
私はあなたの目を覚ますために
生まれたのです・・・



これは、ヴィヴィアン・リーチ氏の長文の詩の冒頭です。新型コロナウイルスから私たち人類へ向けた手紙です。

喉元過ぎれば熱さ忘れるといいます。このコロナ禍もいつかは終息する時が来ます。しかし、それは今あるインフルエンザのような季節性ではなく一年を通して恐れられる疫病としても知れません。今の苦しさを二度と味わうことのないようその時に備えて万全の対策を講じたいものです。

詩は、「地球とその生き物たちを大切に始めてください、何故なら、この次、私はもっと強力になって帰って来るかもしれないから」という警句で締めくくられています。心に刻んでおきましょう。